

メータオ・クリニック支援の会 (JAM) 会報メール 第30号 [2011年4月号]

メータオ・クリニック支援の会 (JAM) 支援者の皆様

いつもご支援していただき、誠にありがとうございます。
JAM 会報メール第30号をお送りします。

JAM は2008年3月に発足されたNGOです。ビルマ/ミャンマーからタイへ貧困や戦火を逃れてきた人々の病院、メータオ・クリニックの活動を支援する目的で設立されました。

支援者の皆様へ JAM の最新の活動を毎月中～下旬ごろ、会報メールにて発信いたします。
今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

<目次> [ページ]

総会および報告会の日程が決まりました [2]

メソト・マンスリー 今月のメソトの様子をお知らせします。 [2]

- ・ [東北地方太平洋沖地震-メソトの祈り日本へ届け-](#)

国内から

- ・ [ビルマのこころ、被災地へ](#) [3]
- ・ [JAMの活動](#) [5]

編集後記 [7]

次号の予定 [8]



この度の宮城県三陸沖を震源とした「東北地方太平洋沖地震」で被災された皆さまには心からお見舞い申し上げます。また犠牲となった皆様とご遺族の皆様方には心からお悔やみを申し上げます。被災地の1日でも早い復旧をお祈り申し上げます。

総会および報告会の日程が決まりました

日時：平成23年6月12日（日）13時30分～
（報告会は14時30分より）

場所：JICA地球ひろば

（東京都渋谷区広尾4丁目2-24 最寄り駅：各線 広尾駅）

詳細スケジュールにつきましては5月の会報にてお伝えする予定です。
ぜひ多くの皆様に足をお運びいただければ幸いです。

メソト・マンスリー

今月のメータオ・クリニックの様子をお届けします。

東北地方太平洋沖地震-メソトの祈り日本へ届け-

文責：梶 藍子（日本事務局）



写真左：黙祷する参加者



写真右：募金活動をする人々（写真提供：SVA）

現地についての情報交換等でメータオ・クリニック支援の会（JAM）が大変お世話になっています日本の公益社団法人シャンティ国際ボランティア（以下、SVA）から情報提供があ

りました。SVAは、タイにあるビルマ難民キャンプでの図書館事業をされています。

3月11日、地震、津波に襲われた日本を



日本国内のみならず世界各国のメディアが伝えました。

世界各地では被災された方々を哀悼し、日本への募金活動が進められています。

そのようななか、メータオ・クリニックがあるタイ・メソトの町でも日本の被災者の皆様に「We are with You! (一緒にいるよ!）」というメッセージを発信したい、募金したいという声上がり、3月26日(土)「チャリティ集会」がSVA、ハンディクラフト店のBorderline、タイNGOのHelp Without Frontiers (HWF) Foundationの共催で開催されました。

SVAのご報告より現地の集会、募金活動の様子が以下に伝えられています。

「集会では、お亡くなりになった方々への黙祷、また被災地の人々を思いながら参加者による応援歌の披露、メッセージ寄せ書きなどを行いました。

ビルマ人のパラミ移民自治学校(メータオ・クリニック支援の会がメータオ・クリニックと共同で主催する学校保健プロジェクト実施校)からも、教員や生徒が参加。異国の地で経済的にも厳しい中で学習・教育活動を続けている生徒の皆さんですが、「大変な時は協力し合いたい」と募金してくれました。

高校生や大学生のボランティアを中心に行われた街頭募金には、商店街の人、買い物客、子ども、警察官、バイクタクシーなど600人以上の方々が募金してくれました。この日の募金総額は27,040 バーツ(約73,000円)となりました。HWFのスタッフは「タイでは、日本人が礼儀正しく、辛抱強く苦難に耐えている様子が連日テレビで映し出されています。タイ人は、あの人たちの力になりたい、と心から思

っているのです」と語ってくれました。

現地のニュースでは配給にきちんと並ぶ日本人の姿がたびたび出てきて、タイの識者が「武士道」「和」の精神などと分析していました。募金やメッセージと共に、被災地の皆さんを元気づけられたらとメソトの皆さんは願っています。」

メータオ・クリニックで働く現地のビルマ人スタッフからもJAMのメンバーへ哀悼のメッセージが送られてきています。メソトからの温かいエールを胸に抱き、メータオ・クリニック支援の会運営メンバーの医師・看護師らもそれぞれが勤務する病院から、また緊急医療援助団体からの派遣を通じて三陸沖の被災地で医療活動を行っています。

世界中から「Pray for Japan (日本のために祈ろう)」というメッセージが聞こえてきます。

その中でもタイ・ビルマ国境のメソトの方々の思いをお届けするとともに、被災された皆様には心からお見舞い申し上げます。また被災地の一日でも早い復旧をお祈り申し上げます。

<引用文>2011年4月7日 SVA 発行・東日本大震災ニュースリリース vol.16

「ミャンマー国境メソトから We Are With You!(いっしょにいるよ!）」
<http://sva.or.jp/press/20110407.pdf>

SVA ホームページ:<http://sva.or.jp/index.html>

国内から

ビルマのころ、被災地へ

【東京＝田辺 文】

「おいしい、おいしいとおかわりをせがまれて本当に幸せだったんです。」

高田馬場でビルマ料理店ルビーを経営するチョーチョーソーさんと友人のトゥーリンナウンさんは、口々に話した。

岩手県陸前高田市で被災1ヶ月後も続く避

難所での生活者を少しでも元気付けようといわれた、在日ビルマ人の有志15人による炊き出しの中心メンバーだ。

「地震と津波の映像を見てから、何かしたいとずっとテレビをみていたんです。」



チョーチョーソーさんは、友人のつながりから岩手県職員に行き着き、今回の炊き出しのために現地での調整をお願いした。在日ビルマ人のネットワークで有志を集めたところ、募集した以上の反響があった。車に乗り切れないので断らざるを得なかった人も、資金面での協力を申し出てくれたという。

避難所での共同生活は、スケジュールもしっかり決まっている。12時に温かい料理が出せるように、野菜などの下ごしらえはすべて東京でおこない、車に載せた。夜中に暗い道を運転し早朝現地に到着、持参のテントを組み立てるところから始めた。プロパンガスもすべて持参。現地に少しでも負担をかけない心遣いが伺える。

献立は、鶏肉と野菜のビルマ風スープカレーと揚げゆで卵のトマト煮。カレーはビルマ料理に欠かせない献立だが、日本のカレーとは大分異なる。たっぷりのスパイスと油で煮込み、濃い味に仕上げるのが本格的なビルマ風。具は鶏肉とジャガイモの2種類が一般的だ。

通常、ルビーでは、本格的なビルマ料理を提供しているチョーチョーソーさんだが、今回は工夫を凝らした。油と辛さを極力押さえ、日本のカレーを少しだけ加えてみた。日本人を喜ばせようと、にんじんやだいこんなど他の野菜も一緒に煮込んだ。ビルマ料理を初めて食べる人にも喜んでもらえるように「心をこめて作った」300食はすぐに完食。大好評だった。

日本語が流暢な2人は避難者への声かけも

忘れなかった。

「家や家族をなくした人に対してなぐさめのことばが見つからず、早く元気な日本が戻るように祈っていますとしか言えなかった」とトゥーリンナウンさん。

「これからどうしようと余裕がない人、仕事をなくした人をどう動かすかが問題です。人間として仕事がないのはつらい。」とチョーチョーソーさん。

国を超えて自分のことのように心配する二人の気持ちは、避難者にとって心強く思われたことだろう。

長期化した軍事政権下で、昨年の選挙に続く新政府の設立後も一般民衆への圧力が緩まない彼らの祖国ビルマ。隣国タイだけでも14万2千人の難民が流出している他、世界中で難民として生活している。日本も昨年27人のビルマ難民を受け入れているが、差別や複雑な制度など、難民や移民外国人にとって住みやすい国とは言いがたい。2人も今の比較的安定した暮らしに至るまでは、並大抵の苦勞ではなかった。

それでも、被災した日本人に対して支援の手を惜しまない理由を率直に聞いてみる。

「確かに日本は外国人が暮らすのは大変な国、でもそれとこれとはちがう。ビルマ人も日本人も関係ない、人と人のつながりです。助け合うのは当然のこと。」と迷わず答えてくれた。





鶏肉と野菜のカレー
(上に浮いた油分はその後取り除いて
優しく仕上げました)



揚げ卵のトマト煮

JAMの活動

【東京＝田中 増美】

今月は、メータオ・クリニックでは、どのような診療が行われているのか、JAMは、どのようにクリニックを支援しているのかということを改めてわかりやすく短くご紹介します。

メータオ・クリニックは1989年に設立されました。院長は、設立当初から、シンシア・マウン医師です。タイのメソトでビルマ移民・難民に対して無償医療および、社会保障サービスを提供している地域住民組織です。また、タイ、ミャンマー両政府からも認定を受けた組織ではありません。そのため、活動資金源は海外の支援団体からの寄付によって賄われています。JAMもその支援団体のひとつです。

・ メータオ・クリニックが提供しているサービス

医療サービス；内科、外科、小児科、歯科、眼科、産婦人科、検査、献血

社会サービス；カウンセリング、出生証明書発行、学校・孤児院運営、長期入院患者ケア
死亡患者の葬儀など

移民へのヘルスケア；学校保健、思春期性教育、HIV/AIDS患者訪問ケアなど

・ 近年の利用者数

	2006年	2007年	2008年	2009年
外来患者数	10,713	114,842	140,937	153,703
入院患者数	8,876	9,066	11,013	11,391

メータオ・クリニックを受診する患者は、
貧困等によりビルマ/ミャンマー国内で医療を受けられず、診療のために国境を超えてやってくる住民もしくは、タイ国内で移民労働者として滞在する住民が半々ずつを占めています。

そのため、患者からのパーツ収入を得ることは困難です。しかし、上の表のとおり、年々



の患者数は、増加しています。患者数が増えるということは、必然的に医薬品や食料、衛生管理、検査もそのぶんだけ必要になってきます。そのため、慢性的な資金不足に陥っているのが現状です。

また、内科病棟では、HIV、結核、コレラ、といった感染症を持つ患者も入院しています。日本では、このような感染する可能性のある疾患の場合、感染予防のために別室もしくは専用の病棟に入院してもらいます。しかし、メータオ・クリニックでは、すべて同室で治療を受けていました。さらにその病棟では、掃除がむずかしいコンクリートの床に直接、患者は寝ていました。感染予防の観点から考えると、とても理想的とはいえないものでした。

そこで感染症隔離病棟をストリートチルドレン等救済基金(大阪コミュニティー財団より)のご支援より設営することができました。2010年10月から、さっそく使われています。

また、2010年11月にミャンマー国内で総選挙が行われました。その後、国境付近では少数民族軍、政府軍による戦闘が激化し、タイ側に最大約2万人の人々が避難してきました。メータオ・クリニックは他の地域住民と協力し、巡回型の診療チームの派遣を行いました。そのため、もともと潤沢ではなかった基本的な医療器具がさらに必要となり、院内で不足する結果となってしまいました。避難してきた人々へ医療のみならず、食糧、毛布、生理用品等といった物資の提供も、継続しています。

そこでJAMでは、2010年11月11日から、ビルマ難民緊急支援基金を立ち上げ、皆様からのあたたかいご寄付をいただきました。総額 369,045.19 バーツ(約 1,151,421 円)を寄付することができました。

また、みつばち倶楽部からの助成金で巡回型の診療チームに対し、血圧計、聴診器の提供を行いました。

JAM が恒常的に継続している支援としては、以下のこともやっています。

・ 院内感染予防

メータオ・クリニックでは、感染予防チーム(Infection Control Team: ICT)というチームがあります。JAMはICTの運営に対するスーパーバイザーとして活動しています。

各病棟ではICTのメンバーとして配置されるメディックスと呼ばれる医療職が感染予防についての責任、活動を担っています。そして感染予防のチェックリストを用いて毎月、感染予防についてのセルフチェックを行っています。そのチェックリストの評価結果、及び感染予防に関わる問題、課題を出して毎月、会議を開き、感染予防対策の強化に努めています。

・ 学校保健

JAMスタッフは、学校保健チームのメンバーとしても活動しています。2010年は、JAMスタッフはメータオ・クリニックの学校保健チームメンバーとともに学校の先生向けに学校保健のためのトレーニングを行いました。

具体的には、生徒や先生に向けての手洗い、歯磨き等の啓蒙活動、害虫駆除、ビタミンA投与の必要性、児童の急変時の対応といった学校保健に関わる内容をトレーニングしました。トレーニングが終わったあとも、先生たちの学校保健に対する知識や技術をフォローする目的で、2ヶ月に1度、学校の先生を対象にした会議を開き、学校保健での問題点、質問等を話し合う場を設けています。

・ 医療器具、古着、文房具等物資支援

JAMではスタディーツアーやJAMメンバーの現地視察時に医療器具、古着、文房具等の物資を運びメータオ・クリニックへ直接寄付しています。現在は、物資の受付はしておりませんのでご了承ください。また、物資支援のご協力を願いたいときには会報やホームページでお知らせいたしますのでそのときは、どうぞよろしくお願ひします。

・ 日本国内での勉強会、広報活動等



日本国内では定期的に会運営にあたっての定例会を開くとともに、現地の最新情報をもとに勉強会を開催しています。また、その活動を広めるべく、総会、現地スタッフ報告会の他に、大学、協賛団体での報告発表を行っています。グローバルフェスタ JAPAN2010 では NGO ブースとして出展しました。勉強会を開催する際などには、会報やホームページでお知らせいたしますのでぜひ、ご参加していただければ幸いです。また、運営する一般及び学生ボランティアは常時募集しています。詳細については、事務局からご説明いたしますのでお気軽にメールでご連絡ください。質問もメールでお待ちしております。

メータオ・クリニック支援の会の活動は、すべてメータオ・クリニック支援の会にご賛同いただく会員の皆様方からの会費、寄付によって成り立っています。心温かいご支援、本当にありがとうございます。皆様のおかげで JAM は、3歳になりました。今後とも、どうぞよろしくをお願いします。

編集後記

先月の会報をお休みしたことにご理解いただき、ありがとうございました。

この1ヶ月ほどの間、JAM スタッフは、それぞれが生計をたてている職業での対応に必死でした。医療職が多いので東北の避難所に派遣されたり、都内に設置された避難所での健康相談対応をしていました。それ以外の職種も復旧のための対応に追われていました。

私が中学生だったあの冬の朝も、結構な揺れを体験しました。携帯電話は今ほど普及しておらず「誰かから電話がかかってくるかもしれないから」と祖母はトイレに行く時間も惜しむほど電話機の前から離れませんでした。神戸からかかってくる電話は、たった1分話せるかどうかくらいに短いものでした。私は、その日から学校が一週間休みになったので毎日テレビを見続けました。ACのコマーシャルは、ひたすら流れました。その後、神戸から一時的に何人かの友達が親元を離れて祖父母を頼って転校してきましたが、その次の冬が来る頃には神戸に帰って行きました。

あの日、第一京浜（箱根駅伝の第一区）は、黙々と歩く人々で埋めつくされ、車も大渋滞していました。びくびくしながら歩いて帰りました。携帯電話の緊急地震速報のけたたましい音に何度もビクッ！！としました。

いつもの帰り道の街灯が消えている。人通りが少ない。スーパーの商品棚がスカスカになる日々が続く。いつもどおりの時間に出勤できない。計画停電も実施中は本当に真っ暗闇。頭では理解していても冷静さを保つのは結構大変なことでした。

当たり前で過ごしていた日常は多くの人の力と技術が重なり合って成り立っていてそれって本当にすごいことでありがたいことなんだと改めて思いました。

テレビでは、「がんばれ」「立ち上がれ」「応援します」「力をあわせて」といった言葉が目立ちます。弱音を吐けない空気が漂います。でも、泣きたいときは、泣いていいと思います。つらい気持ちは、人と比べることはできません。つらいと思ったことは「つらいんだもん！」って言ってしまいませんか。うるうるっとしたら、涙をこらえることなく流しちゃいましょうよ。もう、それぞれがそれぞれの形で十分にがんばっているんですから。

今日、気がついたら、東京は桜の木に葉桜が目立つようになってきていました。もうすぐ、私の好きな緑が生い茂るまぶしい季節が始まります。そして、まだふがふがしている花粉症もそろそろ治まります（予定）。



